

2019年度
日本商工会議所

第152回

簿記検定試験

3級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

LEC東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C)2019 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2019年6月9日/2019年11月16日



0 000212 192647

BL19264

第152回 解答

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	租 税 公 課	500,000	当 座 預 金	500,000
2	手 形 借 入 金	1,000,000	当 座 預 金	1,000,000
3	旅 費 交 通 費	75,000	仮 払 金 未 払 金	50,000 25,000
4	普 通 預 金	1,500,000	資 本 金	1,500,000
5	備 耗 品 費 備 品 費	550,000 5,000	普 通 預 金	555,000

仕訳1組につき各4点 合計20点

第2問 (10点)

問1

補助簿 日付	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳	固定資産 台帳
2日			○		○	○		
16日	○	○						○
18日	○		○	○			○	
25日				○				

問2 ￥(882,000)の固定資産売却(損・益)
(注) ()内の損か益のいずれかに○印をつけること。

問1 日付ごとに2点、問2 2点 合計10点

第 3 問 (30 点)

残 高 試 算 表

X1 年 9 月 30 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
★ 284,000	現 金	
★ 1,240,000	当 座 預 金	
380,000	受 取 手 形	
★ 576,000	ク レ ジ ッ ト 売 掛 金	
40,000	前 払 金	
360,000	繰 越 商 品	
600,000	備 品	
★ 520,000	差 入 保 証 金	
	支 払 手 形	★ 696,000
	買 掛 金	★ 294,000
	所 得 税 預 り 金	15,000
	貸 倒 引 当 金	40,000
	備 品 減 価 償 却 累 計 額	180,000
	資 本 金	1,500,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	968,000
	売 上	★ 8,400,000
	受 取 利 息	★ 3,000
3,930,000	仕 入	
1,900,000	給 料	
★ 507,000	水 道 光 熱 費	
1,360,000	支 払 家 賃	
★ 313,000	支 払 手 数 料	
86,000	消 耗 品 費	
12,096,000		12,096,000

★につき 3 点 合計 30 点

第 4 問 (10 点)

①	②	③	④	⑤
入金	50,000	売掛金	仕入	270,000

各 2 点 合計 10 点

第 152 回 解 答

第 5 問 (30 点)

貸 借 対 照 表

X2 年 3 月 31 日

(単位 : 円)

現 金	(179,000)	買 掛 金	(593,000)
当 座 預 金	(609,500)	借 入 金	(400,000)
売 掛 金 (455,000)		(未払) 消費税	(200,000)
貸倒引当金 (△ 9,100)	(445,900)	未 払 費 用	(8,000)
商 品	(174,000)	資 本 金	(2,000,000)
(前払) 費用	(25,000)	繰越利益剰余金	(1,607,400)
備 品 (1,200,000)			
減価償却累計額 (△ 525,000)	(675,000)		
土 地	(2,700,000)		
	(4,808,400)		(4,808,400)

損 益 計 算 書

X1 年 4 月 1 日から X2 年 3 月 31 日まで

(単位 : 円)

売 上 原 価	(3,026,000)	売 上 高	(5,500,000)
給 料	(1,800,000)		
貸倒引当金繰入	(8,800)		
減 価 償 却 費	(150,000)		
支 払 家 賃	(275,000)		
水 道 光 熱 費	(44,500)		
通 信 費	(64,100)		
保 険 料	(24,000)		
雑 (損)	(1,900)		
支 払 利 息	(20,000)		
当期純 (利益)	(85,700)		
	(5,500,000)		(5,500,000)

□ につき 3 点 合計 30 点

【3級総評】

全体としては基本から標準レベルの問題でした。過去に出題されている論点も多く、合格答練などでしっかりと準備していれば、合格点を取ることは十分に可能な難易度でした。

【解説】**第1問**

仕訳に関する問題です。勘定科目は指定された中から最適なものを選んで、正確に記入する必要があります。

1. 固定資産税の納付

固定資産税の納税通知書を受取り、当座預金口座から納付しています。未払計上をしていないので、納付時に租税公課で処理します。

2. 手形借入金

手形を振出して借入れを行った際に、手形借入金で処理しています。本問では、返済期日となり、当座預金口座から手形代金が引落されています。そのため、手形借入金と当座預金を減少させます。

3. 旅費の概算払いの精算

旅費の概算払いを¥50,000行った際に、仮払金で処理しています。従業員が帰社し、旅費交通費が概算払い額と不足額の合計¥75,000と確定したので、旅費交通費を¥75,000計上します。また、仮払金を減少させるとともに、従業員が立替払いしている¥25,000は従業員への給料支払時に支払うため、未払金で処理します。

4. 株式の発行

株式発行により株主から払込まれた金額は元手を表し、資本金で処理します。

5. 備品・消耗品の購入

事務用のオフィス機器は備品に、コピー用紙は消耗品に該当します。消耗品を購入したときは、消耗品費で処理します。

第152回 解説

第2問

補助簿の記入に関する問題です。各取引の仕訳を考え、記入される補助簿を選択します。基本的には、仕訳に登場した勘定科目に関する補助簿を選択すればよいです。ただし、手許の商品について増減があるか、単価に変化が生じるときは商品有高帳にも記入が必要です。

問1

2日 仕入返品

掛仕入れのあと、仕入返品をしています。掛代金から差引いているため、掛仕入れの反対仕訳をします。よって、仕入帳・買掛金元帳に記入します。また、仕入返品をしたことにより手許の商品が減少するため、商品有高帳にも記入します。

(借)	買	掛	金	20,000	(貸)	仕	入	20,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

16日 土地の購入

有形固定資産である土地を購入しています。本問では、整地費用を取得原価に含めて処理することに注意が必要です。また、支払いは、小切手の振出しと現金により行っています。よって、固定資産台帳・当座預金出納帳・現金出納帳に記入します。

(借)	土	地	5,598,000	(貸)	当	座	預	金	5,400,000
						現		金	198,000

土地の取得原価：@ ¥30,000 × 180 m² + ¥198,000 = ¥5,598,000

18日 商品の売上

売上を計上し、手付金充当分は前受金を減少させ、残額は売掛金の増加とします。得意先負担の発送費を現金で支払っていますが、掛代金に含めるため、売掛金で処理します。よって、売上帳・売掛金元帳・現金出納帳に記入します。また、商品を売上げたことにより手許の商品が減少するため、商品有高帳にも記入します。

(借)	前	受	金	40,000	(貸)	売	上	450,000
	売	掛	金	413,000		現	金	3,000

25日 貸倒れの処理

前期発生 of 売掛金が貸倒れた場合は、貸倒引当金を充当し、不足分は貸倒損失とします。よって、売掛金元帳に記入します。

(借)	貸	倒	引	当	金	160,000	(貸)	売	掛	金	370,000
					貸	倒	損	失	210,000		

問2

土地の売却代金と帳簿価額（取得原価）との差額が固定資産売却損益となります。

固定資産売却損益：@ ¥36,000 × 180 m² - ¥5,598,000 = ¥882,000（売却益）

第3問

残高試算表の作成に関する問題です。

解答手順としては、まず【資料2】X1年9月中の取引の仕訳を行います。次に、この仕訳と【資料1】X1年8月31日の残高試算表に基づいて、勘定科目ごとに9月末における残高を集計します。

【資料2】X1年9月中の取引

1日	(借)	当座預金	303,000	(貸)	貸付金	300,000
					受取利息	3,000
2日	(借)	仕入	240,000	(貸)	前払金	75,000
					買掛金	165,000
3日	(借)	クレジット売掛金	576,000	(貸)	売上	600,000
		支払手数料	24,000			
5日	(借)	買掛金	180,000	(貸)	支払手形	180,000
6日	(借)	所得税預り金	20,000	(貸)	現金	20,000
8日	(借)	差入保証金	320,000	(貸)	当座預金	480,000
		支払手数料	160,000			
12日	(借)	仕入	390,000	(貸)	支払手形	390,000
13日	(借)	受取手形	200,000	(貸)	売上	200,000
16日	(借)	支払手形	250,000	(貸)	当座預金	250,000
19日	(借)	当座預金	780,000	(貸)	クレジット売掛金	780,000
20日	(借)	給料	300,000	(貸)	所得税預り金	15,000
					当座預金	285,000
21日	(借)	当座預金	470,000	(貸)	受取手形	470,000
22日	(借)	水道光熱費	77,000	(貸)	当座預金	77,000
	(借)	支払家賃	360,000	(貸)	当座預金	360,000
26日	(借)	買掛金	220,000	(貸)	当座預金	220,000
27日	(借)	前払金	40,000	(貸)	現金	40,000

第 152 回 解 説

第 4 問

伝票会計の問題です。取引の仕訳を考え、問題資料の伝票において記入済みとなっている箇所を手がかりにして、記入する語句および金額を考えます。

(1) 売上

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	現	金	50,000	(貸)	売	上	500,000
	売	掛	金	450,000			

振替伝票の金額欄に「500,000」と記入済みのため、全額を掛取引として起票する方法（擬制する方法）で起票します。

振替伝票：	(借)	売	掛	金	500,000	(貸)	売	上	500,000
入金伝票：	(借)	現	金	50,000	(貸)	売	掛	金	50,000

(2) 仕入

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	仕	入	300,000	(貸)	現	金	30,000	
					買	掛	金	270,000

出金伝票となる伝票の科目欄に「仕入」と記入済みのため、取引を分解する方法で起票します。

出金伝票：	(借)	仕	入	30,000	(貸)	現	金	30,000	
振替伝票：	(借)	仕	入	270,000	(貸)	買	掛	金	270,000

第 5 問

財務諸表作成に関する問題です。収益・費用の勘定の決算整理後残高を損益計算書に、資産・負債・純資産（資本）の勘定の決算整理後残高を貸借対照表に記入します。財務諸表に記入するときは、仕訳で使う勘定科目と財務諸表上の表示科目の違いに留意しながら記入します。

決算整理事項等は次のとおりです。

1. 現金過不足

決算整理前残高試算表において現金は¥183,000 となっています。これに対して、実際有高が¥179,000 のため、現金を減少させます。また、現金過不足のうち¥2,100 は通信費の記入漏れのため、通信費を計上します。最後に、貸借差額を雑損または雑益としますが、本問では、雑損となります。

(借) 通 信 費	2,100	(貸) 現 金	4,000
雑 損	1,900		

2. 売掛金回収の訂正仕訳

当座預金の入金額が¥62,000 のところ、¥26,000 で処理しています。そのため、差額分だけ、売掛金の回収の処理を追加で行う訂正仕訳を考えます。

〈売掛金回収時の仕訳〉

(借) 当 座 預 金	26,000	(貸) 売 掛 金	26,000
-------------	--------	-----------	--------

〈訂正仕訳〉

(借) 当 座 預 金	36,000	(貸) 売 掛 金	36,000
-------------	--------	-----------	--------

3. 水道光熱費の引落とし

未処理となっている水道光熱費の当座預金口座からの引落としについて処理をします。

(借) 水 道 光 熱 費	3,500	(貸) 当 座 預 金	3,500
---------------	-------	-------------	-------

4. 貸倒引当金の設定

売掛金の期末残高に対して、貸倒見積額を計算します。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	8,800	(貸) 貸 倒 引 当 金	8,800
-------------------	-------	---------------	-------

貸倒見積額：(¥491,000 - ¥36,000) × 2% = ¥9,100

貸倒引当金繰入：¥9,100 - ¥300 = ¥8,800

5. 売上原価の算定

まず、期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。次に、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより、仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借) 仕 入	200,000	(貸) 繰 越 商 品	200,000
(借) 繰 越 商 品	174,000	(貸) 仕 入	174,000

6. 減価償却

(借) 減 価 償 却 費	150,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	150,000
---------------	---------	-----------------------	---------

減価償却費：(¥1,200,000 - ¥0) ÷ 8 年 = ¥150,000

第152回 解説

7. 消費税の処理・税抜方式

仮受消費税と仮払消費税との差額を未払消費税とします。

(借) 仮受消費税	440,000	(貸) 仮払消費税	240,000
		未払消費税	200,000

8. 支払利息の未払い

借入金の利息について、当期末において未払いとなっている分を未払計上します。なお、11月に利息の支払いを行っているため、X1年12月からX2年3月までの4ヶ月分を計算して処理します。

(借) 支払利息	8,000	(貸) 未払利息	8,000
----------	-------	----------	-------

$$\text{未払利息} : \text{¥}400,000 \times 6\% \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}8,000$$

9. 支払家賃の前払い

支払済の家賃のうち翌期分について前払いの処理をします。

(借) 前払家賃	25,000	(貸) 支払家賃	25,000
----------	--------	----------	--------

$$\text{前払家賃} : \text{¥}150,000 \times \frac{1\text{ヶ月}}{6\text{ヶ月}} = \text{¥}25,000$$